日刊 動労千葉

82.4.28
No.1031

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

6名の怒りと決意をわかものとして 1300総決起しよう！

4/22総決起集会での発言

すべての皆さん！　既に「4月19日、出頭命令」の仲間3名、および「4月22日出頭命令」の仲間3名は、いずれも不退転の決意で、この不当な「出頭命令」攻撃を断固拒否し、闘いに決起している。次にくるであろう不当逮捕攻撃へも真向から対決し、完全黙秘・非転向のなみなみならぬ決意をうち固めた。さあ、くるならこい！　当該4支部をはじめ、動労千葉全11支部はすでに臨戦総決起体制をうち固めた。この攻撃の質、この闘いの勝利が日本労働運動の生死をわかつ。

すべての組合員は、この6名の仲間の不退転の決意を自らの決意としなければならない。

万全の支部総決起体制を確立した。6名と家族を絶対に守る！4支部の決意

成田・日暮支部長

「わが動労千葉が8・3ジェット以降も前進し続け、3・6全国労働者集会と3・28三里塚闘争がいずれも新たな大高揚にむかっていることに対する敵の恐怖の弾圧だ。『血と汗と涙で』闘い勝ちとった、この動労千葉の組織と動労千葉魂を全体で守りぬこう。」

幕張・加藤岡執行委員

「権力・革マル一体となった汚いやり方を怒りをもって断罪する。不当弾圧をかけられた6名を守りきるため、幕張支部は先頭で闘いぬく。」

勝浦・岩瀬書記長

「勝浦では、4月20日、支部拡大執行委を開催し、吉野君と家族を守りぬき、支部をあげて反撃にたち上ることを決定した。23日には、支部総決起集会を開催し、以降、ろう城体制で闘う。」

佐倉・佐藤青年部長

「佐倉支部は、4月19日、支部執行委員会を開催し、不当弾圧に対する闘う意志統一を行った。現在、連日ろう城して闘っている。『本部』革マルと小川を絶対に許さない。佐倉は、全支部と共に闘いぬく。」

動労千葉の誇りにかけ、完黙・非転向つらぬき闘う

6名の仲間の決意

滝口・幕張支部書記長

「対話オルグは、組合活動の生命であり、正当な組織活動だ。過日のブルートレイン事故の出口社長士に対して、マスコミが『国賊キャンペーン』をはり、権力が逮捕し、当局が即クビにした。その上で『五00万円の損賠請求攻撃をかけようとしている。労働者として永年働いてきたあげくに、こんな仕うちを受ける。これは労働者とその家族に死ねということだ！　今日、権力は、どんな事故でも、組合活動へでも直接介入して組織つぶしをやる突破口をひらこうとしている。こんなことを断じて許してはならない。怒りをこめて弾劾し、闘いぬく。」

吉野・勝浦支部執行委員

「こんな事は絶対に許されない。権力とそれに『本部』革マルがこのような攻撃をかけてくることは、絶対に許さない。支部の仲間の皆さんと共に最先頭で、出頭を拒否し、逮捕には、完全黙秘をもって闘いをつらぬく。」

大須賀・成田支部書記長

「またもデッチ上げ弾圧にうったえた権力と『本部』革マルは許せない。現在日帝・支配側の総力をあげた、国鉄労働運動解体攻撃のその最大頂点が今回の攻撃である。動労千葉の戦闘性・階級性に対する、つまり、一三00への組織破壊攻撃・弾圧という点をキチッとみすえて断固闘いぬいていこう。」

宮内・佐倉支部執行委員

「正当なオルグ活動が『不法監禁強要』とは言語道断である。自分としては、動労千葉佐倉支部の組合員としての誇りをかけて、この間の運動の一切の成果をかけて闘っていく。」

錦織・成田支部執行委員

「出頭拒否！完黙・非転向！と支部総決起をもって勝利する。『タレコミ小川』および権力との闘いをトコトンつらぬき、労働者の敵革マルを一掃するまで闘う。」

川島・成田支部執行委員

「デタラメなタレコミだ。『事件』にデッチ上げようとしている事柄は米粒だが、これは重大な攻撃だ。支部の仲間と全ての仲間と共に、たとえ逮捕されても、23日間、完黙非転向で闘う。」

全ての組合員の皆さん！　この6名の仲間の怒りと決意をいささかもあいまいにせず、動労千葉魂を発揮し、うって一丸となって闘いぬこう！

権力・革マル一体となった不当デッチ上げ弾圧を許さない！　正当なオルグ活動にさえ不当介入を狙う、攻撃のエスカレーションを許すな！　決意表明に立つ6名の仲間。（4月22日、総決起集会。於・教育会館）